

飯能県税事務所長賞

暮らしを豊かにする税金

藤沢中学校 三年 桑久保 璃心

ある日、私は定期検診のハガキが届いたので、母と弟と歯医者に行った。お会計の際、母は診察料がかかっていたけれど、私と弟はかかっていなかった。以前から、私と弟の診察料が歯医者だけでなく他の病院でもかかっているのは知っていたけれど、気になったので調べてみた。

子供の医療費は、小学生以上は大人と同じ三割が自己負担となっている。本来かかる七割は、毎月支払われている保険料によって運用されている公的医療保険制度から支払われている。しかし、家計負担が重くならないように、全国の市区町村で独自に制度を設けて更に自己負担分を助成している。この制度により、私たち子供の医療費を払わずに済んでいることが分かった。

もし、仮にこの制度がなくなって、医療費が全額自己負担になったら、私たちの生活がどれほど苦しくなるのか考えてみた。

国民一人当たりの生涯の医療費は二千七百万円だと推計されている。私は、こんなにお金がかかると知って、とても驚いた。一人でもこんなに高いのに、家族の分も払うことになると倍のお金が必要となる。また、入院などもするとどんどん必要なお金が増加する一方だ。医療費の自己負担が、全額か三割かによって金額も大幅に変化してくる。

私は、とても恵まれていると感じた。多くの子供たちも、そのように感じていると思う。日本には、このような助成の制度があるが、これが普通ではない。調べてみると、全額負担の国が何か国もあった。このような制度があることのありがたさを感じた。

今、世界中でコロナウイルスの感染力が強まっている。コロナのワクチン自体の費用は、全額税金で負担されていることを知った。医者や看護師などの給料、予診票や接種券などの用紙代、それらを郵送するための郵便代、全て税金が使われているようだ。

中学生の私が直接払っている税金は消費税しかない。消費税率が八パーセントから十パーセントに上がったときには、なぜ上げる必要があるんだ、とと思っていたが消費税がどのように使われているか知ると、自分の払ったお金が社会の役に立っていると感じられて嬉しくなった。

これから先も税金を払う義務が国民にはある。また、日本は少子高齢化が進んでいるため、今よりも税金が重要となってくる。税金を払う上で、税金がどのように使われているのかを一人一人が理解をする必要があると思う。

子供の医療費が無料になっていること、ワクチンを無料で打てることをあたりまえだと思わず、感謝していきたい。みんなが責任をもって税金を払い、その税金で少しでも暮らしが豊かになることを願っている。